T1 ToneMatch™ AUDIO ENGINE

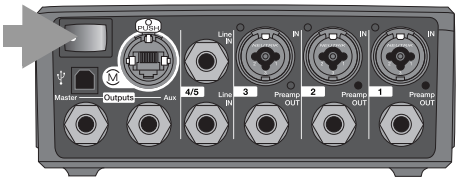
取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

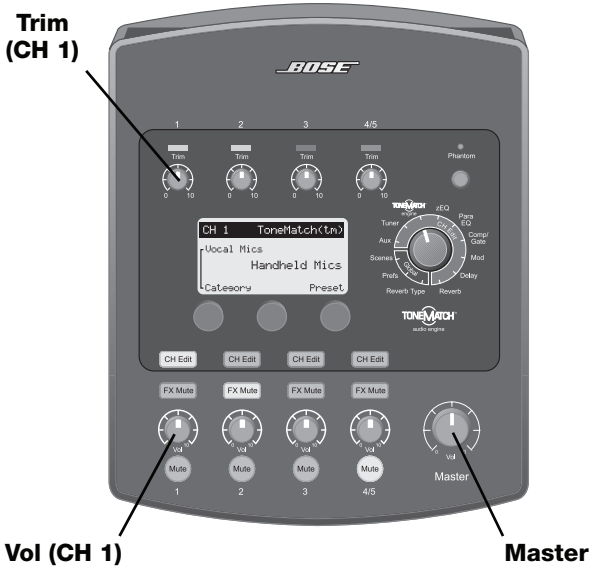
すぐに音を出すには

1. キャリーバッグから T1 ToneMatch™ オーディオエンジンを取り出して、保護カバーを取り外します (5 ページ)。
2. クイックセットアップガイドを参考に、T1 を L1™ システムに接続します。
3. **T1 Master** ボリュームコントロールが、**0** に設定されていることを確認します (14 ページ)。
4. T1 のスイッチを入れた後、L1 model I システムのスイッチを入れます。

ON



5. 楽器またはマイクロホンを、T1 の後ろにあるチャンネル 1 入力に差し込みます (3 ページ)。
6. 楽器を演奏するか、マイクロホンで歌います。入力信号インジケータが緑に点灯するまで、CH 1 の **Trim** コントロールを右に回します (14 ページ)。
7. **T1 Master** ボリュームコントロールを、12 時の位置になるまでゆっくり回します (14 ページ)。
8. CH 1 **Vol** コントロールを、楽器またはマイクロホンが聞こえるまでゆっくり回します (14 ページ)。



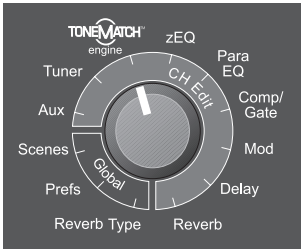
重要！

14 ページの「音量調整の手順」を必ずお読みください。入力トリム、チャンネルボリューム、マスターボリュームの音量調整手順について説明しています。

音を作る

T1 のロータリーセレクターを回して、機能を選択します。

ディスプレイ情報と、ディスプレイの下にあるコントロールボタンを使って、設定を変更します (16 ページの「T1 ディスプレイを読む」をご覧ください)。



1. **ToneMatch™ engine：**楽器またはマイクロホンのプリセットを選択します (18 ページの「ToneMatch™ のプリセットを選択する」をご覧ください)。
2. **zEQ：**選択した ToneMatch の各プリセットに連動して、低 / 中 / 高の周波数帯域を調整します (19 ページの「zEQ を調整する」をご覧ください)。
3. **Para EQ:**イコライゼーションを調整します (19 ページの「Para EQ を調整する」をご覧ください)。
4. **Comp/Gate：**コンプレッサー、リミッター、ゲートなど、ダイナミックス系エフェクターを使用します (20 ページの「Compressor/Gate 機能を使用する」をご覧ください)。
5. **Mod：**コーラスやフランジャーなど、モジュレーション系エフェクターを使用します (22 ページの「モジュレーション系エフェクターを使用する」をご覧ください)。
6. **Delay：**ディレイエフェクターを使用します (23 ページの「ディレイエフェクターを使用する」をご覧ください)。
7. **Reverb：**リバーブエフェクターを使用します (24 ページの「リバーブエフェクターを使用する」をご覧ください)。
8. **Reverb Type：**すべてのチャンネルに適用するリバーブエフェクターの種類を選択します (24 ページの「リバーブエフェクターを使用する」をご覧ください)。
9. **Prefs：**8 項目のシステムユーティリティをディスプレイ表示、または設定できます (26 ページの「Prefs ユーティリティを使用する」をご覧ください)。
10. **Scenes：**T1 の各種設定をシーンメモリーとして保存し、簡単に呼び出すことができます。また、あらかじめプリセットされた 5 つの「Bose Scenes」のうち 1 つをロードして使用することができます（30 ページの「シーンをロード・保存する」、35 ページの「Bose Scene」をご覧ください)。

この取扱説明書には、これらの機能や、ここでは説明のないその他の機能についても記載しています。T1 ToneMatch™ オーディオエンジンを最大限に利用するために、この取扱説明書をお読みください。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

⚠ 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

⚠ 警告	分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場、プールなどでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

警告	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 ●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。 ●この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。
	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意		●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
		●電源を入れる前には音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
		●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
		●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
		●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
		●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
		●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。また、電源プラグは根元まで差し込んでください。 ●シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。
		●この機器は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行なっていただくようお願いします。

はじめに 1

コントロールおよびインジケータ 2
接続パネル 3
内容物と専用 AC アダプター 4
カバーの取り付け・取り外し 5

システム 5

取り付けオプション 6
L1 model I システムに T1 を接続する 10
T1 用 AC アダプターを接続する 12
コンピューターに T1 を接続する 13
音量調整の手順 14

操作説明（Operating Instructions） 15

Master ボリュームをコントロールする 15
チャンネルをミュートする 15
チャンネルのエフェクトをミュートする 15
T1 のディスプレイを読む 16
T1 ロータリーセレクターを使用する 17
チャンネルエディット機能について 18
- ToneMatch™ プリセットを選択する 18
- zEQ を調整する 19
- Para EQ を調整する 19
- Compressor/Gate 機能を使用する 20
- KickGate を使用する 21
- モジュレーション系エフェクターを使用する 22
- ディレイエフェクターを使用する 23
- リバーブエフェクターを使用する 24
- 入力信号を Aux 出力に送る 24
- チューナーを使用する 25

Global 機能を使用する 25
リバーブタイプを選択する 25
Prefs ユーティリティを使用する 26
シーンをロード・保存する 30
シーンを共有する 33
Bose Scene 35
Factory Settings（工場出荷時設定） 35
Singer/Songwriter（シンガー・ソングライター） 36
DJ/Playback（DJ/ プレイバック） 38
Drums and Bass（ドラムおよびベース） 40
The Works シーン 42

工場設定（Factory Settings） 44

メンテナンス（Care and Maintenance） 46

お手入れについて 46
トラブルシューティング 46
故障かなと思ったら？ 46
修理について 51
保証 51
プリセットリスト 52
仕様 56
寸法図 57

T1 ToneMatch™ audio engine（以下 T1）は、L1™ system（以下 L1）を使用するミュージシャンのために開発され、ライブ演奏に必要な機能をコンパクトな 1 台に凝縮した、画期的なオーディオ・プロセッシングユニットです。T1 はマイク・ギター・ベース・キーボードをはじめとした様々な楽器の特性にあわせて開発された、約 100 種類に及ぶボーズ独自の ToneMatch™ プリセットを内蔵。さらには高度な音質調整を可能にする zEQ 機能、スタジオレベルの高音質エフェクター類、入出力系統の拡張機能、シーンメモリー機能なども搭載し、L1 の使い勝手の幅を広げ、そのパフォーマンスを飛躍的に向上させます。

主な特長

- L1 で楽器本来の音を忠実に再現するための、約 100 種類の「ToneMatch™ プリセット」内蔵
- ToneMatch™ プリセットと連動し、各楽器の最適な周波数帯域における緻密な音質調整を可能にする「zEQ 機能」
- ダイナミクス系、モジュレーション系、ディレイ系、リバーブ系の各種高音質エフェクター内蔵
- T1 の各種設定を自由に保存、呼び出しができるシーンメモリー機能
- 高音質を確保しながらも L1 の使い勝手を更に高める、各種入出力系統とミキサー機能
- 暗いステージ上でも高い視認性を確保するバックライト付大型液晶ディスプレイ
- L1 スピーカー本体やマイクスタンドにも取り付け可能な、柔軟なセッティング性
- クロマチックチューナー内蔵
- PC との接続を可能にする USB ポート搭載

コントロールおよびインジケータ

操作に必要なコントロールおよびインジケータはすべて、コントロールパネルに配置しています。

図 1

正面パネル

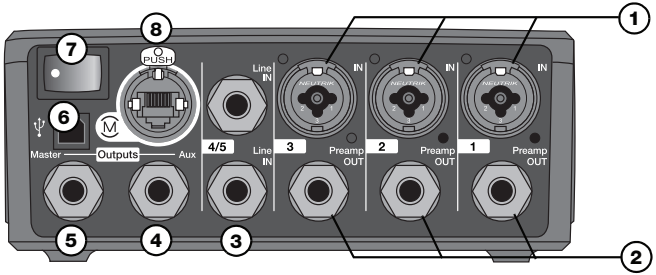
1. **入力信号 / クリップ LED(1-4/5)** －入力信号のステータスを色で表示します。緑は入力信号があることを示します。黄色はクリップに近いこと、赤はクリップの状態を示します。
2. **Trim コントロール (1-4/5)** －各チャンネルの入力感度を調整します。
3. **Phantom 電源スイッチ**－入力チャンネル 1-3 に、+48V の電圧をかけます。赤い LED は、ファンタム電源が入っていることを示します。
4. **T1 ロータリーセレクター**－各種機能の設定モード変更用セレクター。設定作業にはコントロールボタン（10）も使用します。
5. **MASTER ボリュームコントロール**－全体的な出力レベルを調整します。
6. **Mute ボタン (1-4/5)** －各チャンネルの音声出力をミュートします。
7. **ボリュームコントロール (1-4/5)** －各チャンネルのボリュームレベルを調整します。
8. **FX Mute ボタン (1-4/5)** －選択したチャンネルの Mod、Delay、Reverb エフェクターをバイパスします。
9. **CH Edit ボタン (1-4/5)** －選択した CH の各種パラメータ設定を可能にします。T1 ロータリーセレクター（4）で指定した機能のパラメータ設定作業を有効にします。
10. **コントロールボタン**－ディスプレイ上に表示される各種項目・パラメータ値の選択・設定用ボタン。ディスプレイに表示される項目は各機能によって異なります。
11. **ディスプレイ**－機能メニューおよびシステムステータスの情報を表示します。

接続パネル

背面パネルに、すべての入出力接続端子を配置しています。

図 2

T1 コネクターパネル



1. **IN** ーアナログ入力チャンネル 1-3。マイクロホン用の XLR バランスケーブル、またはギターなど、ハイインピーダンス入力用のバランス / アンバランス標準フォーンプラグを接続します。
2. **Preamp OUT** ーチャンネル 1-3 のプリアンプ出力。バランス / アンバランス標準フォーンプラグを接続します。
3. **Line IN** ーアナログ入力チャンネル 4/5。ラインレベル入力用のバランス / アンバランス標準フォーンプラグを接続します。ステレオ入力時に使用できます。
4. **Aux Output** ーユーザーが指定した CH の入力信号を出力します。プリフェーダー（Dry）、ポスト EQ/ エフェクター（Pre）、ポストフェーダー（Post）の 3 種類の中から出力信号を設定できます。バランス / アンバランス標準フォーンプラグが接続可能。
5. **Master Output** ー T1 に入力された全ての信号を出力するマスター出力端子。プリマスターボリューム、ポストマスターボリュームの 2 種類の中から出力信号の設定もできます。バランス / アンバランス標準フォーンプラグが接続可能。
6. **USB ポート** ー T1 をコンピューターと接続するための USB 端子。T1 のソフトウェアアップデートやシーン設定のバックアップなどに使用します。また、レコーディングソフトウェアなどと組み合わせて、T1 を USB オーディオ機器として使用することもできます。
（※ USB ケーブルは同梱されていません。T1 と接続する際には TypeA ⇔ TypeB の USB ケーブルを別途用意します。）
7. **電源スイッチ** ー T1 本体の電源を ON/OFF します。
8. Ⓜ **-ToneMatch™ ポート** ー L1 model I system と使用する際は、電源接続用として必ず T1 専用 AC アダプターを接続します。ToneMatch™ ポートは一見標準の RJ45 端子に見えますが、LAN や電話回線には接続しないでください。

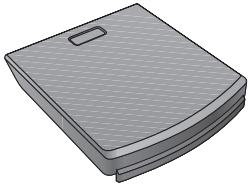
内容物と専用 AC アダプター

T1 本体には AC アダプターは同梱されておりませんので、L1™ model I system と接続する際には必ず別梱包の T1 用 AC アダプターを使用する必要があります。ToneMatch™ ケーブルは日本では使用しません。

図 3

部品リスト

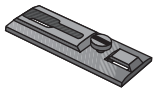
T1 ToneMatch™ オーディオエンジン



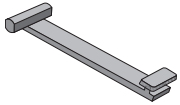
カバー

キャリーケース

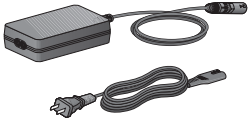
T1 ToneMatch™ ケーブル



アタッチメント



取付バー



T1 専用 AC アダプター
（別梱包）

製品のゴム足について

- ゴム足の素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。
- 付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性もありますので、事前にご確認のうえご使用ください。

注意

カバーの取り付け・取り外し

T1 ToneMatch™ オーディオエンジンは、正面パネルに保護用カバーを取り付けた状態で梱包されています。T1 を輸送または保管するときは、保護用カバーを取り付けておくことをおすすめします。

カバーの取り外し：

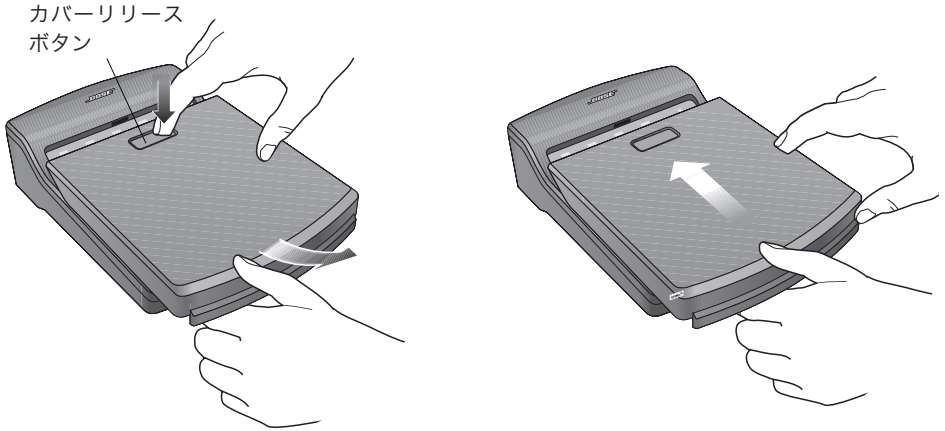
1. カバーリリースボタンを押します (図 4)。
2. コントロールパネルからカバーをずらします。
3. カバーの前端部を持ち上げて、取り外します。

カバーの取り付け：

1. T1 にカバーを置きます。
2. カバーの内側のタブを、T1 の前端部にある穴に合わせます。
3. カチッと音がするまで、コントロールパネルにカバーを押し込みます。

図 4

カバーの取り付け / 取り外し



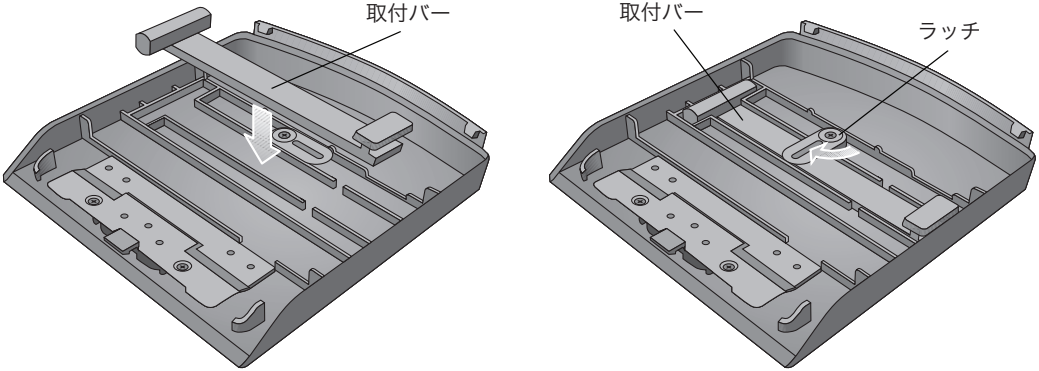
取り付けオプション

L1 スピーカーに T1 を取り付ける

付属品のアタッチメントおよび取付バーを使って、L1 スピーカーに T1 を取り付けます。
また、取付バーは、保護用カバーの内側に収納することができます (図 5)。

図 5

カバーに取付バーを収納する

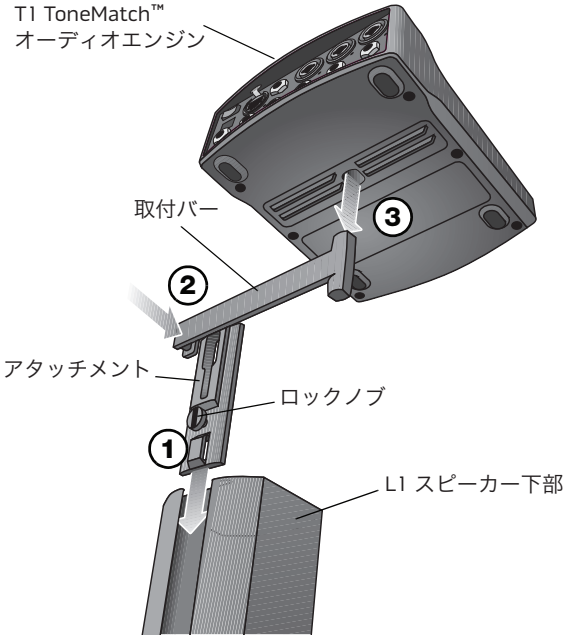


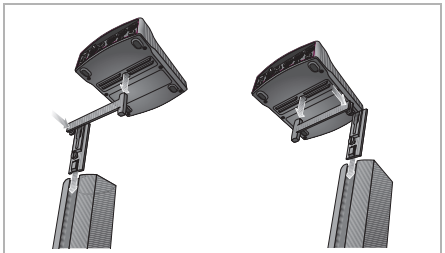
この取り付けには、L1 スピーカーの上部を取り外す必要があります。

1. L1 スピーカー下部の後ろにある溝にアタッチメントをはめ込んだ後、ロックノブを右に回して、所定の位置に固定します (図 6)。
2. 取付バーをアタッチメントのスロットに挿入して、下に押し込みます。
3. 取付バーに T1 を置きます。

図 6

L1 スピーカーへの取り付け方法





T1 は、右または左に取り付けることができます。

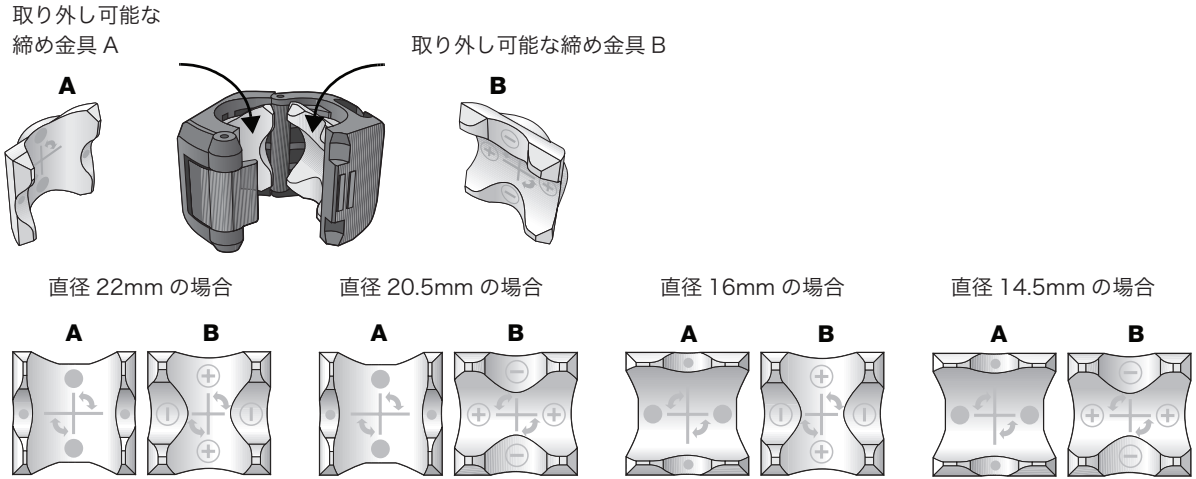
マイクスタンドに T1 を取り付ける (オプション)

T1 用マイクスタンド取付ブラケットを使うことによって、ほとんどのマイクスタンドのシャフトに、T1 を取り付けることができます。取り付けの詳細については、ブラケットに付属のクイックセットアップガイドをご覧ください。

ブラケットには、マイクスタンドのシャフトを締め付ける回転式締め金具が使われています。
図 7 は、一般的なシャフト径での締め金具の配置を示しています。

図 7

ブラケットと
締め金具の配置

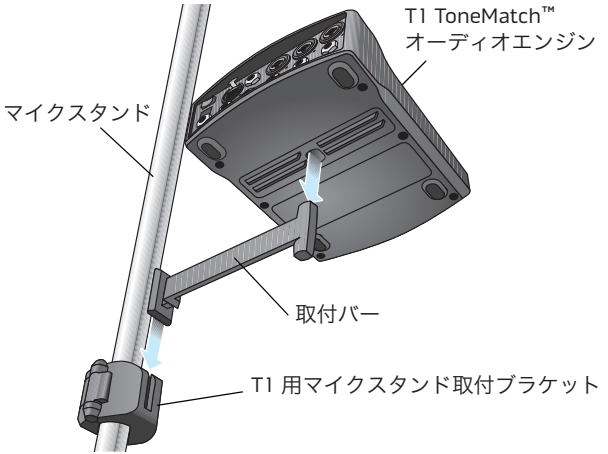


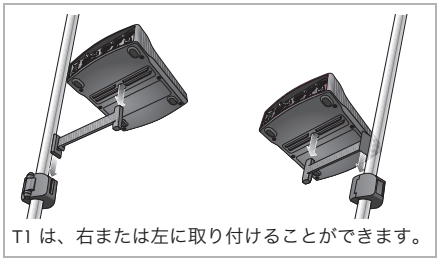
T1 用マイクスタンド取付ブラケットの設置：

1. マイクスタンドのシャフトの直径を求めます。マイクスタンドブラケット・クイックセットアップガイドの端にある切欠きは、直径を求める場合に便利です。
2. ブラケットから締め金具 (8 ページの図 7) を一旦取り外して、それらをスタンドの直径に合わせて組み合わせます。
3. T1 用マイクスタンド取付ブラケットを、マイクスタンドに付けます。
4. T1 用マイクスタンド取付ブラケットに、取付バーを付けます。
5. 取付バーに T1 を置きます。

図 8

T1 を
マイクスタンドに
取り付ける
(オプション)





T1 は、右または左に取り付けることができます。

L1 model I システムに T1 を接続する

L1 と T1 を接続する際には、必ず **PS1 パワースタンド** の**チャンネル 3・4** を使用してください。PS1 パワースタンドのチャンネル 1・2 は ToneMatch プリセットが有効である上、各チャンネルのボリューム調整・EQ 調整も可能なため、T1 をチャンネル 1・2 に接続した際、その音質に悪影響が出る恐れがあります。また T1 側で Master ボリュームを調整するため、R1 リモートコントローラーは必ず外しておきます。もちろんチャンネル 1･2 に別の入力がある場合は R1 リモートコントローラーを接続する必要がありますが、このとき R1 リモートコントローラーは T1 の Master ボリュームを調整できませんので、ご注意ください。

L1 model I システムへの T1 の接続 (マスターボリュームコントロールとして) :

1. PS1 パワースタンドの **Power** スイッチが OFF になっていること、R1 リモートコントローラーを切り離していることを確認します。
2. T1 用 AC アダプターを T1 背面の ToneMatch™ ポートへ接続します。AC アダプターには電源コードを接続しておきます。詳細については、12 ページの「T1 用 AC アダプターを接続する」をご覧ください。
3. T1 **Master** ボリュームコントロールが、**0** に設定されていることを確認します。
4. アンバランス標準フォーンプラグ付ケーブルの一方の端を、T1 **Master** 出力端子に差し込みます。アンバランス標準フォーンプラグ付ケーブルのもう一方の端を、PS1 パワースタンドのチャンネル 3(またはチャンネル 4) の Line IN コネクターに差し込みます。
5. PS1 パワースタンドの Line IN **Level** コントロールを、**2** に設定します。場合によっては、希望のゲイン構成にするために、Line IN **Level** コントロールをこの初期設定から少し調整する必要があります。
6. T1 オーディオエンジンのスイッチを入れます。
7. PS1 パワースタンドのスイッチを入れます。
8. 楽器を接続し、音量を調整します。14 ページの「音量調整の手順」をご覧ください。

図 9

T1 と L1™
model I の接続

注意：グラウンドループによって生じる問題を回避するため、PS1 パワースタンドと T1 の電源は、同じ AC 電源回路に接続します。

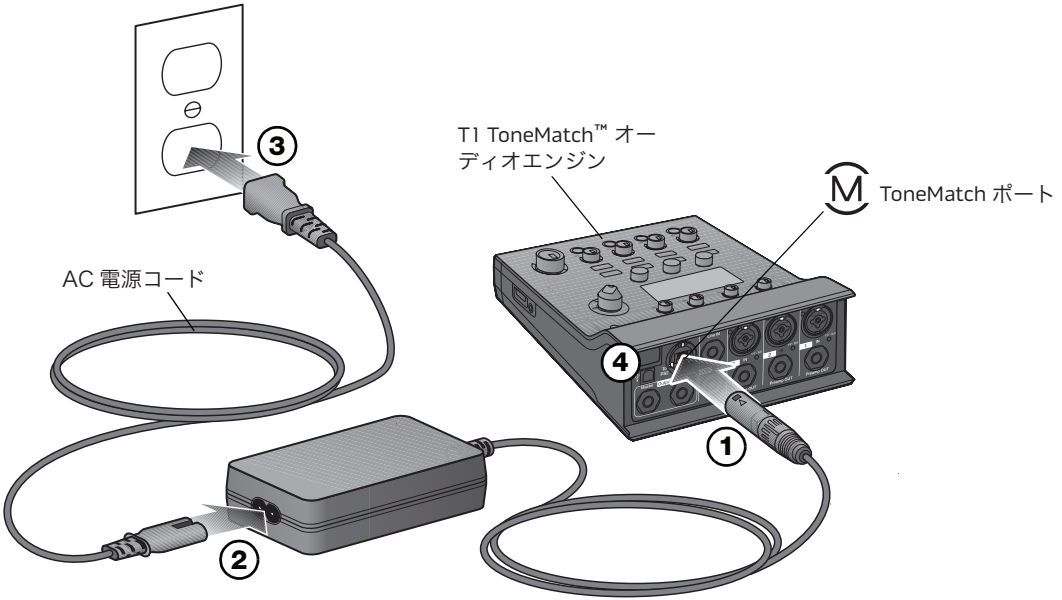
T1 用 AC アダプターを接続する

T1 を L1™ model I システムまたはコンピューターに接続する場合、T1 用 AC アダプターを使用します。

1. T1 ToneMatch™ ポートに電源ケーブルを差し込みます。
2. AC 電源コードの 1 方の端を、電源に差し込みます。
3. AC (電源) コンセントに電源コードのもう 1 つの端を差し込みます。
4. T1 の電源スイッチを、ON の位置に切り替えます。

図 10

T1 用
AC アダプター
の接続



コンピューターに T1 を接続する

T1 には、コンピューターに接続するための USB ポートが設けられています。T1 のソフトウェアアップデートやシーン設定のバックアップなどに使用します。また、レコーディングソフトウェアなどと組み合わせて、T1 を USB オーディオ機器として使用することもできます。

（※ USB ケーブルは同梱されていません。T1 と接続する際には TypeA ⇔ TypeB の USB ケーブルを別途用意します。）

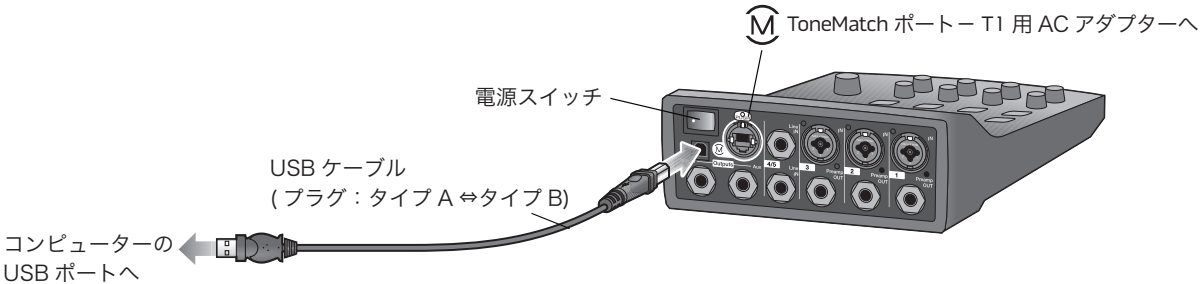
注意: T1 は、48kHz/24 ビットで動作します。録音ソフトウェアで T1 を使用する場合、ソフトウェアの設定を、48kHz/24 ビットに設定する必要があります。

コンピューターに T1 を接続するには、USB ケーブル (プラグ：タイプ A ⇔タイプ B、市販品) が必要です。

1. T1 用 AC アダプターに、T1 を接続します (12 ページの「T1 用 AC アダプターを接続する」をご覧ください)。
2. T1 の USB ポートに、USB ケーブルの一方の端を差し込みます (図 11)。
3. コンピューターの USB ポートに、USB ケーブルのもう一方の端を差し込みます。
4. T1 のスイッチを入れます。

図 11

T1 と USB の接続



重要！
音量調整の手順

T1 を使ってベストな音量で使用するためには、各チャンネルに対して以下の手順で使用を始めます。また突然大きな音が鳴ってしまわないようにするためにも、必ず手順に沿って調整することをおすすめします。

1. **Master ボリューム、Trim、チャンネルボリュームのコントロールが、0 に設定されていることを確認します。**
2. **入力チャンネルの Trim を調整します。**

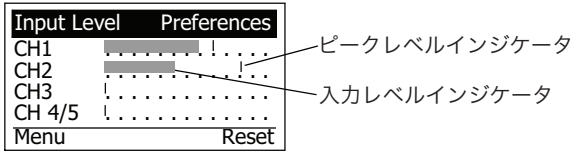
A. 楽器 / ソースのボリュームを希望のレベルに調整します。

B. 楽器 / ソースを実際の演奏時の音量で演奏します。

C. 信号 / クリップのインジケータが緑に点灯するか、黄色で点滅し始めるまで、**Trim** コントロールをゆっくり右に回します。インジケータが赤く点滅するか、赤く点灯すれば、**Trim** コントロールを左に回して、レベルを下げます。

D. **Prefs** メニューの入力レベル計 (27 ページ) を使って、入力レベルを調べます。

(例)



注意 : コンデンサマイクロホンなど、ファンタム電源 (+48V) を必要とするデバイスを使用する場合は、**Trim** コントロールを調整する前に、**Phantom** 電源スイッチを押し込みます。

注意 : Prefs メニューの入力レベル計は、入力 Trim レベルの調整に使用します (27 ページをご覧ください)。

3. **Master ボリュームコントロールを 12 時の位置にセットします。**

4. **音量が希望のレベルになるまで、チャンネルボリュームコントロールをゆっくり右に回します。**

Master ボリュームをコントロールする

Master ボリュームつまみは、**Master** 出力の全体的なレベルを調整します。

チャンネルをミュートする

Mute ボタンは、各チャンネルの音声をミュートします。

- チャンネルをミュートするには、**Mute** ボタンを 1 回押します。**Mute** ボタンが青く点灯して、チャンネルをミュートしていることを示します。
- チャンネルのミュートを解除するには、**Mute** ボタンをもう 1 回押します。**Mute** ボタンが消灯して、チャンネルをミュートしていないことを示します。

チャンネルのエフェクトをミュートする

FX Mute 1-4/5 ボタンは、各チャンネルの Mod、Delay、Reverb エフェクトのみミュートします。エフェクトをミュートすることで、ToneMatch プリセット、zEQ、Para EQ、Comp/Gate の設定をバイパスすることはありません。

- チャンネルのエフェクトをミュートするには、**FX Mute** ボタンを 1 回押します。**FX Mute** ボタンが青く点灯して、チャンネルのエフェクトをミュートしていることを示します。
- チャンネルエフェクトのミュートを解除するには、**FX Mute** ボタンをもう 1 回押します。**FX Mute** ボタンが消灯して、チャンネルのエフェクトをミュートしていないことを示します。

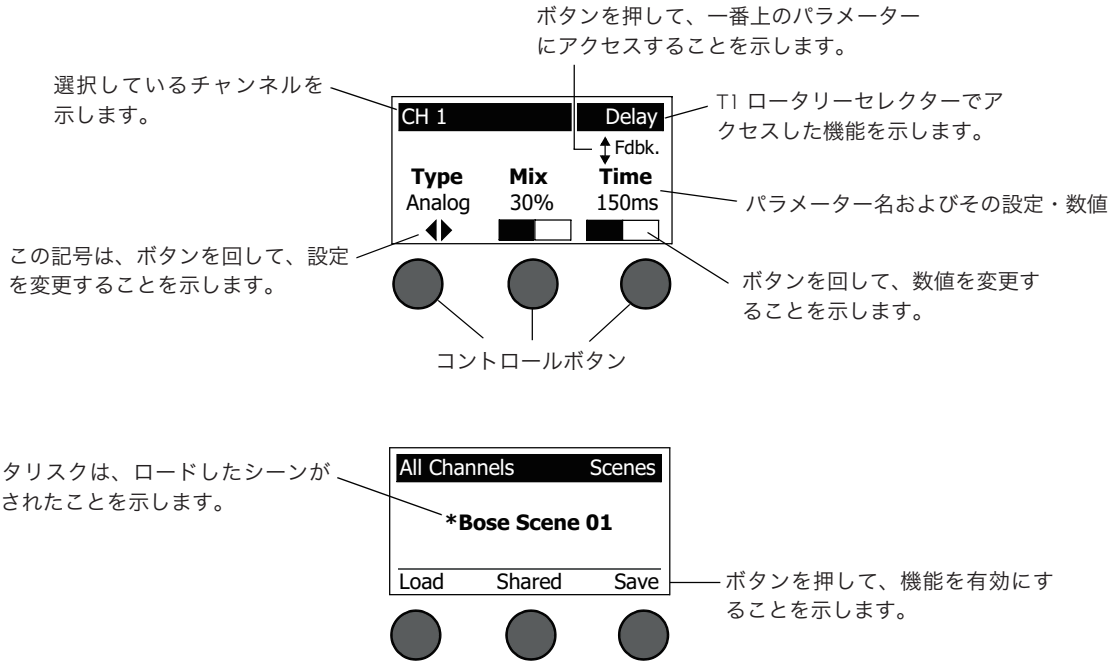
注意：T1 ロータリーセレクターを Mod、Delay、または Reverb にセットすれば、"FX Mute is Active"（FX Mute が有効）というメッセージがディスプレイに表示されます。

T1 のディスプレイを読む

このディスプレイを参考に、T1 を操作します。ディスプレイ情報と基本的な操作方法の例を、図 12 に示しています。ディスプレイの内容は、T1 ロータリーセレクターの位置によって異なります。

図 12

ディスプレイと操作方法の例

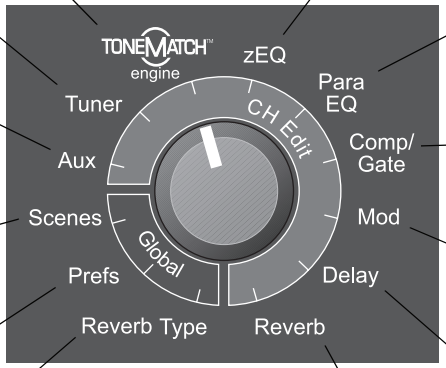


T1 ロータリーセレクターを使用する

T1 ロータリーセレクターは、各種機能の設定モードにアクセスします。
図 13 は、全チャンネルに有効な 3 つのグローバル機能と、9 つのチャンネルエディット機能です。以下のページでは、各機能を調整する方法を説明します。

図 13

ロータリーセレクター



ToneMatch™ engine
楽器およびマイクロホンの ToneMatch プリセットにアクセスします。

Tuner
クロマチックチューナーを使用します。

Aux
選択したチャンネルを Aux 出力に送ります。

グローバル機能

Scenes
T1 の各種設定を保存、ロードできます。

Prefs
システムユーティリティにアクセスできます。

Reverb Type
選択した種類のリバーブを、すべてのチャンネルに適用します。

zEQ
選択した ToneMatch プリセットに連動して、各楽器の特性に適した 3 バンド EQ 調整を行います。

Para EQ
単一帯域のレベル、周波数、幅パラメーターのコントロールを行ないます。

Comp/Gate
ダイナミクス系エフェクターを使用します。

Mod
モジュレーション系エフェクターを使用します。

Delay
3 種類のディレイエフェクターを使用します。

Reverb
各チャンネルへのリバーブエフェクターの適用とそのエフェクト量を調整します。

チャンネルエディット機能について

CH Edit 機能は、Aux、Tuner、ToneMatch プリセット、zEQ、Para EQ、Comp/Gate、Mod、Delay、Reverb などの機能を選択したチャンネルに対して設定します。

チャンネルのエディット：

1. **CH Edit 1**、**2**、**3**、または **4/5** ボタンを押します。**CH Edit** ボタンが青く点灯して、選択したチャンネルのパラメータ設定を可能にします。
2. T1 ロータリーセレクターを使って、**CH Edit** 機能のいずれかを選択します。
3. 以下の説明に従って、各機能の設定を調整します。

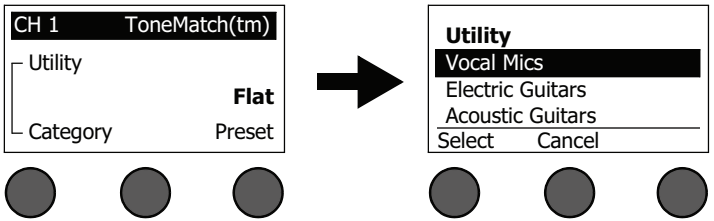
注意：一度にエディットできるのは、1 つのチャンネルに限られます。CH Edit ボタンを押すことによって、選択したチャンネルのみエディットできます。他の CH Edit ボタンはすべて消灯して、無効であることを示します。

ToneMatch™ プリセットを選択する

ToneMatch™ エンジンの設定モードでは、各種楽器またはマイクロホンの特性に合わせて開発されたボーズ独自の ToneMatch™ プリセットを選択することができます。使用する楽器の特性に合わせて L1 スピーカーの音を EQ 補正し、楽器本来の持つ音を忠実に再現できます。ToneMatch™ プリセットは、カテゴリー別に分けられており、各チャンネルごとに個別に選択することができます。

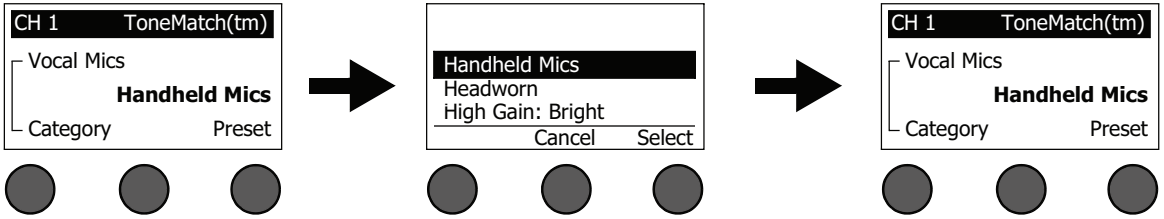
注意:選択した ToneMatch™ プリセットをバイパスするには、Category ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Category** ボタンを回して、使用したいカテゴリーを選びます。



2. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずにリストを終了します。

3. **Select** を押した後、**Preset** ボタンを回して使用したいプリセットを選びます。

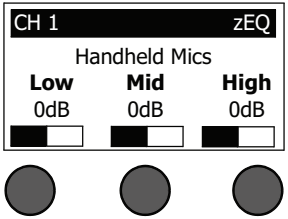


4. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更しないでリストを終了します。

zEQ を調整する

選択した ToneMatch プリセットに連動して、各楽器の特性に適した 3 バンド EQ 調整を行います。zEQ を調整するには、対応する周波数帯域の下のボタンを回します。

注意：個々の周波数帯域をバイパスするには、対応するボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

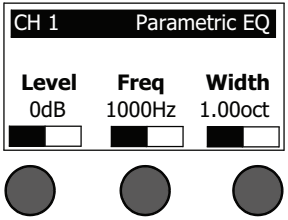


Para EQ を調整する

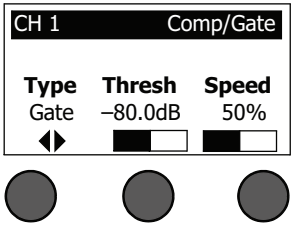
Para EQ 機能は、50Hz ～ 8000Hz の帯域幅において、特定の周波数での音質調整を行なうパラメトリックイコライゼーション機能です。

注意：Para EQ の設定をバイパスするには、Level ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Level** ボタンを回して、ブースト / カットレベルを +15dB ～ –15dB に調整します。
2. **Freq** ボタンを回して、中心周波数を 50Hz ～ 8000Hz に調整します。
3. **Width** ボタンを回して、中心周波数での帯域幅を 0.20 オクターブ～ 5.00 オクターブに調整します。



Compressor/Gate 機能を使用する



Comp/Gate 機能は、下記のダイナミクス系エフェクターの設定を行ないます。

注意：Comp/Gate の設定をバイパスするには、Type ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Type** ボタンを回して、Comp/Gate エフェクトのリストにアクセスし、使用するエフェクターを選択します。

Compressor 1：Light.....可変スレショルドおよびゲインパラメーターを備えたプリセットの低コンプレッションを特色とする Light Compressor。最小限のレベルコントロールを必要とするほとんどの楽器およびマイクロホンに対応する多目的コンプレッサーとしてよく合います。

Compressor 2：Medium.....可変スレショルドおよびゲインパラメーターを備えたプリセットの中程度コンプレッションを特色とするコンプレッサー。微妙なレベルコントロールを必要とするベース、ギター、キーボード、ボーカルによく合います。

Compressor 3：Heavy.....可変スレショルドおよびゲインパラメーターを備えたプリセットの高コンプレッションを特色とするコンプレッサー。より迫力のあるレベルコントロールを必要とする強いボーカルとともに、ホーンやドラムなど、大音量の楽器によく合います。

Limiter.....可変スレショルドおよびゲインパラメーターを備えたプリセットの比率 (∞:1) を特色とするハードリミッター。ピークを抑えてレベルオーバーとなるのを防ぐため、ドラムなど、非常に大音量の楽器によく合います。

De-Esser.....可変スレショルドおよびゲインパラメーターを備えたプリセットのコンプレッション比率を特色とするサイドチェーンコンプレッサー。ボーカルの歯擦音を下げるように作られています。

Noise Gate.....プリセットの速いアタック時間、可変スレショルド、可変速度 (リリース時間) を備えたノイズゲート。マイクロホンや楽器からノイズを除去するのに適しています。

KickGate 1：Regular.....プリセットのアタック時間、可変スレショルド、タイトネス (リリース時間) のパラメーターを特色とするゲート。これは、L1 でバスドラムのキック音をより大音量で鳴らすために開発された、ボーズ独自のバスドラム用エフェクター。マイクのハウリングも抑える効果があります。

KickGate 2：Fast.....KickGate 1 と同じですが、より速いテンポに調整されます。ツインペダルを使用する場合は、この設定を選択します。

2. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずにリストを終了します。
3. Comp1 ～ 3、Limiter、De-Ess の場合：**Thresh** ボタンを回して、入力スレショルド (トリガー) レベルを –50dB ～ 0dB に調整します。**Gain** ボタンを回して、ゲインを 0dB ～ 30.0dB に調整します。ボタンの上のゲインバーは、ゲインを下げた量を示します。このディスプレイは、スレショルドの設定に役立ちます。

   Gate の場合：**Thresh** ボタンを回して、入力スレショルド (トリガー) レベルを –90dB ～ –30dB に調整します。**Speed** ボタンを回して、ゲートを閉じる速度を 0(最も速い) ～ 100% (最も遅い) に設定します。

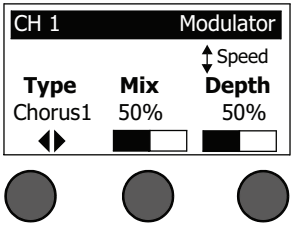
   Kick1 ～ 2 の場合：**Thresh** ボタンを回して、入力スレショルド (トリガー) レベルを –20dB ～ 0dB に調整します。**Tight** ボタンを回して、タイトネス (ゲートを閉じる速さ) を 0(最も遅い) ～ 100% (最も速い) に調整します。

KickGate を使用する

KickGate は、マイクロホンからのハウリングを除きながら、バスドラムのチャンネルのレベルを上げることができるボーズの独自技術です。Comp/Gate メニューでは、2 つの KickGate 設定ができます。

1. 適切な種類のマイクロホンを接続します。
2. 適切な ToneMatch™ プリセットを選択します。
3. 最も強力なバスドラムの音で、入力チャンネルの LED が赤ではなく黄色に点灯するように、チャンネル入力 **Trim** コントロールを調整します。
4. T1 ロータリーセレクターで、**Comp/Gate** を選択します。
5. **Type** ボタンを回して、リストをスクロールダウンし、**KickGate 1** か **KickGate 2** を選択した後、**Select** を押します。ツインペダルを使用する場合は、KickGate 2 を選択します。
6. バスドラムを演奏しながら、希望の演奏レベルまでボリュームを上げます。
7. 演奏中での最もソフトなレベルでバスドラムを演奏して、それが聞こえることを確認します。
8. ソフトに演奏しながら、バスドラムの音がカットされるまで、**Thresh** レベルを上げます。その後、**Thresh** レベルを 3dB 下げます。
9. バスドラムを普通に演奏しながら、**Tight** ボタンを左に回して、タイトネスを下げ、サウンドに「余韻」を追加します。タイトネスは、0(最も遅い) ～ 100% (最も速い) に調整できます。

モジュレーション系エフェクターを使用する



Mod 機能は、下記のモジュレーション系エフェクターの設定を行ないます。

注意：Mod の設定をバイパスするには、Type ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Type** ボタンを回して、モジュレーターのタイプのリストにアクセスし、使用するエフェクターを選択します。

   Chorus 1：Brite.....アコースティックな楽器によく合うウェットで揺らぎのあるコーラス。ミックス、深さ、速度のパラメーターが調整可能です。

   Chorus 2：Warm.....Chorus 1 とよく似ていますが、少し高域を抑えています。ミックス、深さ、速度のパラメーターが調整可能です。エレキギター / ベースによく合います。

   Chorus 3: Dark.....Chorus 2 とよく似ていますが、Chorus 2 からさらに高域を抑えたダークトーンが特長です。ミックス、深さ、速度のパラメーターが調整可能です。エレキギター / ベースによく合います。

   Flanger 1: Tape.....フィードバックのないテープスタイルのフランジャー。ミックス、深さ、速度のパラメーターが調整可能です。エレキギター / ベースに対するエフェクトとしてよく合います。

   Flanger 2: Feedback .....Flanger 1 にフィードバック効果のプリセットを加えています。

   Phaser 1: Stomp.....クラシックな「コンパクトペダル」スタイルのフェイザー。速度とフィードバックのパラメーターが調整できます。エレキギター / ベースおよびキーボードに対するエフェクトとしてよく合います。

   Phaser 2: Rack .....クラシックな「ラック」スタイルのフェイザー。速度とフィードバックのパラメーターが調整できます。エレキギター / ベースおよびキーボードに対するエフェクトとしてよく合います。

   Phaser 3: Warm .....ビンテージスタイルのフェイザー。速度とフィードバックのパラメーターが調整できます。エレキギター / ベースおよびキーボードに対するエフェクトとしてよく合います。

   Phaser 4: Bright.....低域を抑えたフェイザー。速度とフィードバックのパラメーターが調整できます。エレキギターおよびキーボードに対するエフェクトとしてよく合います。

   Tremolo.....ビンテージスタイルのトレモロエフェクト。速度と深さのパラメーターが調整できます。ギター、キーボード、ハーモニカに対するエフェクトとしてよく合います。

2. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずにリストを終了します。

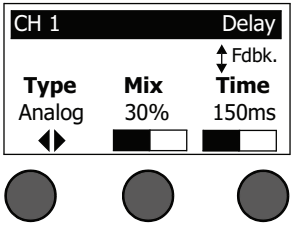
3. Chorus1 ～ 3、Flanger1 ～ 2 の場合：**Mix** ボタンを回して、ウエットな信号 (エフェクト処理された信号) へのドライな信号（原音）のミックス具合を調整します。**Depth** ボタンを回して、オリジナルの入力信号からのピッチの変化を調整します。**Depth** ボタンを押して、**Speed** パラメーターにアクセスします。**Speed** ボタンを回して、ピッチを変える速さを調整します。

   Phaser 1 ～ 4 の場合：**Speed** ボタンを回して、ピッチを変える速さを調整します。**Fdbk.** ボタンを回して、音のゆらぎ具合を調整します。

   Tremolo の場合：**Speed** ボタンを回して、ボリュームを変える速さを調整します。**Depth** ボタンを回して、オリジナルの入力信号からのボリュームの変化を調整します。

ディレイエフェクターを使用する

Delay 機能は、下記のディレイエフェクターの設定を行ないます。



注意：Delay の設定をバイパスするには、Type ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Type** ボタンを回して、Delay のタイプのリストにアクセスし、使用するエフェクターを選択します。

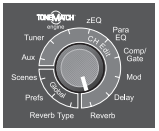
   Digital Delay.....原音がそのままリピートされるデジタルディレイエフェクト。ミックス、時間、フィードバックのパラメーターが調整できます。ギター、ドラム、ボーカルによく合います。

   Analog Delay.....ディレイ音に、アナログ特有の音劣化効果を作りながらくり返すクラシックなアナログディレイエフェクト。ミックス、時間、フィードバックのパラメーターが調整できます。ギター、ドラム、ボーカルによく合います。

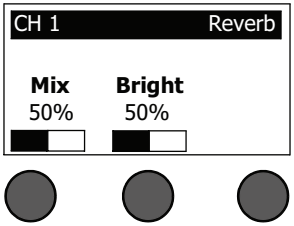
   Tape Delay.....ディレイ音がアナログディレイよりもさらに音劣化効果が大きいビンテージスタイルのテープディレイエフェクト。ギター、ホーン、ハーモニカ、ボーカルによく合います。

2. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずにリストを終了します。
3. **Mix** ボタンを回して、ウエットな信号へのドライな信号のミックス具合を調整します。
4. **Time** ボタンを回して、ディレイ時間を調整します。
5. **Time** ボタンを押して、**Fdbk**. 設定にアクセスします。**Fdbk.** ボタンを回して、ディレイフィードバックの量を調整します。

リバーブエフェクターを使用する



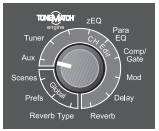
Reverb 機能は、各チャンネルへのリバーブエフェクターの適用（バイパス可）とそのエフェクト量を調整することができます。リバーブの種類を選択するには、25 ページの「リバーブタイプを選択する」をご覧ください。



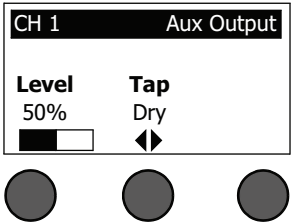
注意：Reverb エフェクトをバイパスするには、Mix ボタンを押します。もう一度押すと、有効になります。

1. **Mix** ボタンを回して、ウエットな信号 (残響処理) へのドライな信号のミックス具合を調整します。
2. **Bright** ボタンを回して、リバーブの高域を調整します。

入力信号を Aux 出力に送る



Aux 機能は、ユーザーが指定したチャンネルの入力信号を Aux 出力端子へ出力設定できます。プリフェーダー (Dry)、ポスト EQ/ エフェクター (Pre)、ポストフェーダー (Post) の 3 つのタップポイントから出力信号を設定できます。



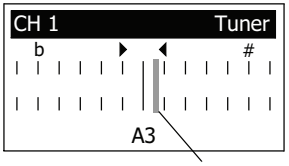
注意：Aux 出力をミュートするには、Level ボタンを押します。もう一度押すと、ミュートが解除されます。

1. **Level** ボタンを回して、選択したチャンネルの信号レベルを調整します。
2. **Tap** ボタンを回して、タップメニューをスクロールし、使用するタップポイントを選びます。

   Dry: After Preamp ..... 入力信号をダイレクトにそのまま取り出せるタップポイント。
   Pre: With EQ & FX ..... ToneMatch™ プリセット、各エフェクター調整後の信号が取り出せるタップポイント。
   Post: After Fader..... 各チャンネルのレベル調整後の信号が取り出せるタップポイント。
3. **Select** ボタンを押してタップポイントを選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずに終了します。現在選択しているタップポイントの名前が、太字で表示されます。

チューナーを使用する

各入力チャンネルに接続された楽器の調律（チューニング）を行なうことができます。画面の中央下部に演奏している音階を表示します。チューニングを行なうと、ディスプレイにピッチインジケーターが表示されます。カーソルが画面の中心に来るように、楽器のピッチを調整します。



ピッチインジケーター

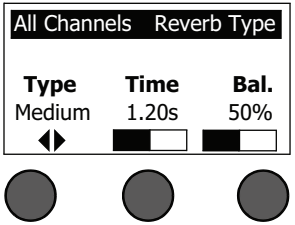
注意：チューニングの時に音を出したくない場合は、対応するチャンネルの Mute ボタンを押します。

Global 機能を使用する

Global 機能には、全チャンネルに有効な 3 つの機能（Reverb Type、Prefs、Scenes）があります。

リバーブタイプを選択する

Reverb Type 機能は、すべての入力チャンネルに適用するリバーブの種類を選択します。残響時間 (Time) と、バランス (Bal) が調整可能です。バランスは、初期反射音と後期反射音の割合（エコー比）をコントロールします。



1. T1 ロータリーセレクターで、**Reverb Type** を選択します。
2. **Type** ボタンを押して、リバーブのリストを表示します。

Plate.....典型的なレコーディングスタジオ程度の残響効果を作ります。残響時間とバランス (エコー比) のパラメーターが調整できます。ギター、ホーン、打楽器、ボーカルによく合います。

Small.....小規模空間における残響効果を作ります。残響時間とバランス (エコー比) のパラメーターが調整できます。ギター、ホーン、打楽器、ボーカルによく合います。

Medium.....中規模空間における残響効果を作ります。残響時間とバランス (エコー比) のパラメーターが調整できます。ギター、ホーン、打楽器、ボーカルによく合います。

Large .....大規模空間における残響効果を作ります。残響時間とバランス (エコー比) のパラメーターが調整できます。ギター、ホーン、打楽器、ボーカルによく合います。

Cavern.....アリーナクラスの特大サイズの空間における残響効果を作ります。残響時間とバランス（エコー比）のパラメーターが調整できます。

3. **Type** ボタンを回して、リバーブリストをスクロールし、使用するリバーブを選びます。
4. **Type** ボタンを押して、選択します。
5. **Time** ボタンを回して、残響時間を 0.20 ～ 9.99 の値に調整します。
6. **Bal.** ボタンを回して、エコー比 (0% = すべて初期のエコー、100% = すべて後期のエコー) を調整します。

Prefs ユーティリティを使用する

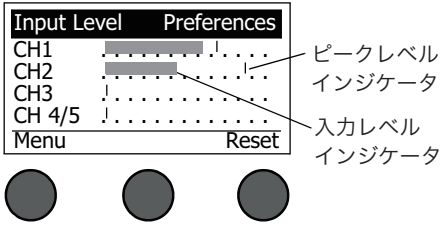
Prefs 機能は、システムユーティリティにアクセスします。

1. T1 ロータリーセレクターで、**Prefs** を選択します。
2. **Menu** ボタンを回して、リストをスクロールし、希望のユーティリティを選びます。**Select** ボタンを押して、ユーティリティを選択します。
   - **Status** ー入力チャンネルに割り当てたエフェクターを表示します (表示のみ)。

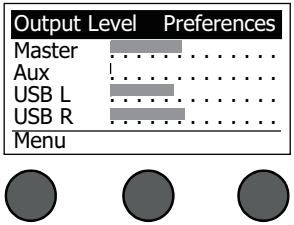
Status		Preferences	
CH1	Cmp	Mod	Rev
CH2	Cmp	Mod	Rev
CH3		Mod Dly	
CH 4/5			Rev
Menu			

Cmp = Compressor/Gate
Mod = Modulation
Dly = Delay
Rev = Reverb

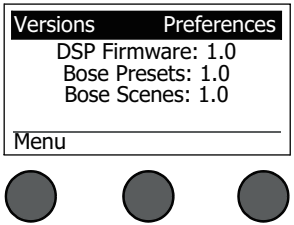
- **Input Level** －すべての入力チャンネルに対して、ピーク信号インジケータを備えた入力レベル計を表示します。**Reset** ボタンを押して、すべてのピーク信号インジケータをリセットします。このディスプレイは、チャンネル入力のトリムレベルの設定に役立ちます (14 ページの「音量調整の手順」をご覧ください)。



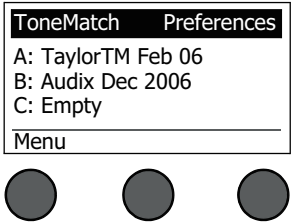
- **Output Level** －すべての出力（Master、Aux、USB L (左)、USB R (右)）に対して、出力レベル計を表示します。



- **Versions** － DSP Firmware、Bose Presets、Bose Scenes の各バージョン情報を表示します (表示のみ)。

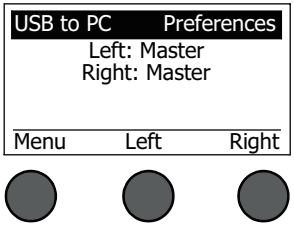


- **ToneMatch™** – T1 本体の A、B、C 各プリセットバンクに追加された ToneMatch™ プリセットバンクのリストを表示します。最新のプリセットバンクについては、www.bose.co.jp をご覧ください。



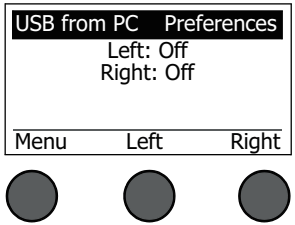
- **Power Stand** –日本では使用しません。

- **USB to PC** –選択したソースを、コンピューターに送ります。ソースの選択には、CH1、CH2、CH3、CH4/5、Master、Aux があります。すべてのチャンネルソースは、リバーブ以外の処理を経たポストタップ信号を出力します。



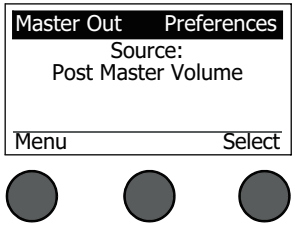
1. **Left/Right** ボタンを回して、CH1、CH2、CH3、CH4/5、Master、または Aux のソースを選びます。
2. **Select** ボタンを押してソースを選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずに終了します。
3. **Menu** を押して、Prefs メニューリストに戻ります。

- **USB from PC** －コンピューターからのオーディオ信号を T1 に入力する際の設定に使用します。USB オーディオの L/R 各信号を off にするか、CH4/5 もしくは、Master へ送ります（off、CH4/5、Master）。CH4/5 に設定した場合は、USB オーディオ信号がダイレクトに CH4/5 に入力され、Trim つまみ調整以外の全ての信号処理が有効となります。CH4/5 のアナログ入力は、そのまま使用できます。



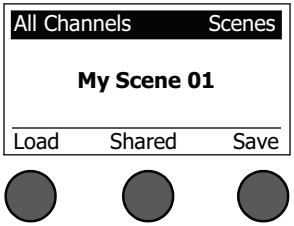
1. **Left/Right** ボタンを回して、Off、CH4/5、または Master のいずれかを選びます。
2. **Select** ボタンを押して選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずに終了します。
3. **Menu** を押して、Prefs メニューリストに戻ります。

- **Master Out** －出力端子の信号を、プリマスターボリューム（マスターボリューム調整前の信号）か、ポストマスターボリューム（マスターボリューム調整後）のどちらかに設定できます。



1. **Select** ボタンを回して、Post Master Volume または Pre Master Volume を選びます。
2. **Select** ボタンを押して設定を選択するか、**Cancel** ボタンを押して変更せずに終了します。
3. **Menu** ボタンを押して、Prefs メニューリストに戻ります。

シーンをロード・保存する



T1 の各種設定をシーンメモリーとして保存し、簡単に呼び出すことができます。シーンメモリー機能で保存できるのは、CH1 ～ CH4/5 各 CH の ToneMatch プリセットやエフェクターなどの DSP 設定の他に、CH Edit、FX Mute、Mute ボタンのステイタスもメモリーします。各 CH の Trim つまみ設定、ボリュームつまみ設定、マスターボリュームつまみ設定やファントム電源設定はメモリーできません。

T1 には 3 種類のシーンがあります。

- (5) Bose Scene：読み出し専用のあらかじめ内蔵されているシーン。変更や書き込みはできません。
- (10) My Scene（User Scene）：すべての設定を保存して、呼び出すユーザー定義のシーン。書き込みによって、何回でも更新できます。
- (1) Shared Scene：他の T1 ToneMatch オーディオエンジンユーザーと共有したい設定を保存するユーザー定義のシーン。このシーンは、www.bose.co.jp で入手できる L1™ updater ソフトウェアを使って、コンピューターにアップロードできます。

シーンのロード：

1. T1 ロータリーセレクターで、**Scenes** を選択します。
2. **Load** ボタンを右に回して、シーンリストをスクロールし、希望のシーン名を選びます。現在ロードしているシーンが、太字で表示されます。
3. **Select** ボタンを押してシーンを選択するか、**Cancel** ボタンを押しリストを終了し、設定を変更せずにおきます。

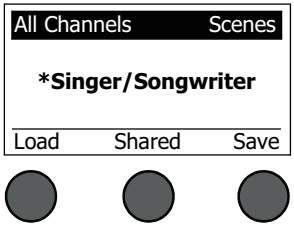
注意：Select または Cancel ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

4. **Select** を押せば、"Are you sure?" と質問が表示されます。**Yes** ボタンを押してシーンをロードするか、**No** ボタンを押して終了して、シーンの設定を変更せずにおきます。

注意：Yes または No ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

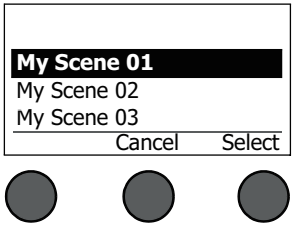
シーンの保存：

1. T1 ロータリーセレクターで、**Scenes** を選択します。現在ロードしているシーンが表示されます。



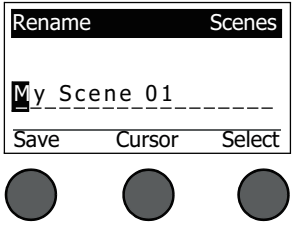
(例)

2. **Save** ボタンを回して、保存したいシーンを選びます。**Select** を押します。もしくは **Cancel** を押してリストを終了します。



注意：Select または Cancel ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

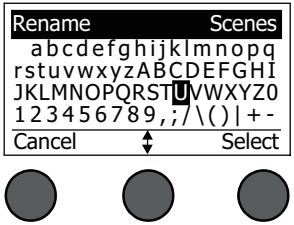
3. **Select** を押した後、Rename 画面を使ってシーン名を変更するか、変更する必要のない場合は **Save** を押して Step4 に進みます。



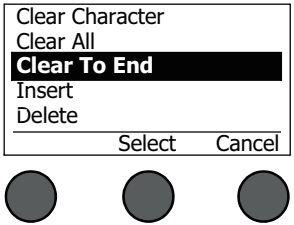
保存する前にシーン名を変更する：

以下のエディットオプションを使って、シーン名を変更できます。名前を変更した後、**Save** ボタンを押して、Step4 に進みます。

- **文字を選択して、変更します：**Rename 画面が表示されている時に、**Cursor** ボタンを回して、変更したい文字または文字の位置を選びます。つぎに、**Select** ボタンを回して、文字を変更します。
- **キャラクターマップを使用します：**Rename 画面が表示されている時に、**Cursor** ボタンを回して、変更したい文字を選びます。つぎに、**Select** ボタンを押して、キャラクターマップを表示します。**Select** ボタンを回して、カーソルを左右に移動します。上 / 下ボタン (中央) を回して、カーソルを上下に移動します。希望の文字を選んで **Select** を押して、選択した位置にその文字を書き込みます。

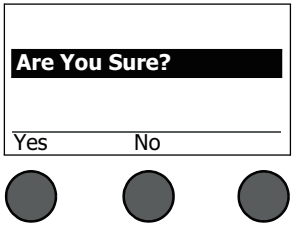


- **消去、挿入、削除機能を使います：**Rename 画面が表示されている時に、**Cursor** ボタンを回して、カーソルの位置を合わせ、**Cursor** ボタンを押します。**Select** ボタンを回して、希望の機能を選びます。つぎに、**Select** ボタンを押して、その機能を実行します。



Clear Character.....カーソルで選んだ文字を取り除いて、ブランクスペースにします。
Clear All.....テキストの行全体を取り除きます。
Clear to End.....選んだ文字を含めて、カーソルの右にあるすべてのテキストを取り除きます。
Insert.....選んだ文字の左に、ブランクスペースを挿入します。
Delete.....カーソルで選んだ文字およびスペースを取り除きます。

4. "Are you sure" と質問が表示されれば、**Yes** ボタンを押してシーンを保存するか、**No** ボタンを押してシーンを保存せずに終了します。



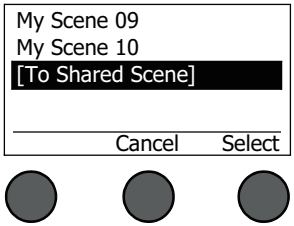
注意：Yes または No ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

シーンを共有する

他の T1 ToneMatch™ オーディオエンジンユーザーと共有したいシーンを作れば、そのシーンを Shared Scene として保存できます。L1™ updater ソフトウェアを使って、コンピューターに Shared Scene を保存した後、他の T1 ユーザーのコンピューターにファイルを転送できます。他の T1 ユーザーは、L1 updater ソフトウェアを使って、そのシーンを自分の T1 にダウンロードできます。L1 updater ソフトウェアは、www.bose.co.jp で入手できます。

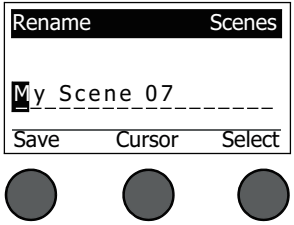
Shared Scene の保存：

1. 共有したいシーンをロードします (30 ページの「シーンをロード・保存する」をご覧ください)。
2. **Save** ボタンを押して、シーンのリストにアクセスします。
3. **Select** ボタンを回して、シーンリストをスクロールして、**[To Shared Scene]** を選び、**Select** を押します。もしくは **Cancel** を押してリストを終了します。



注意：Select または Cancel ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

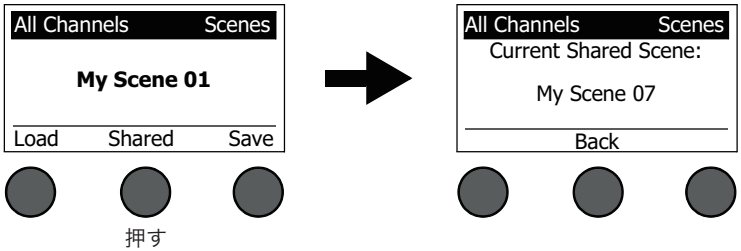
4. **Select** を押した後、Rename 画面を使ってシーン名を変更するか (32 ページの「保存する前にシーン名を変更する」をご覧ください)、既存の名前を使いたい場合は Step5 に進みます。



5. **Save** ボタンを押して、そのシーンを Shared Scene として保存します。
6. "Are you sure" と質問が表示されれば、**Yes** ボタンを押してシーンを保存するか、**No** ボタンを押して、シーンを Shared Scene として保存せずに終了します。

注意: Yes または No ボタンを 15 秒以内に押さなければ、ディスプレイは Scenes 画面に戻ります。変更は行なわれず、現在ロードしているシーンが画面に表示されます。

7. **Shared** ボタンを押して、Shared Scene として保存されているシーンを確認します。



注意： T1 には、Shared Scene の記憶場所が 1 つしかありません。Shared Scene としてシーンを保存する場合は、以前に保存した Shared Scene に上書きします。

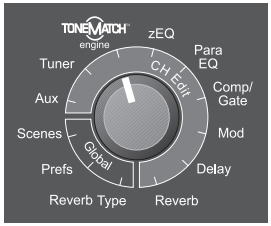
コンピューターにシーンをダウンロード・アップロードする L1™ updater ソフトウェアの詳細については、www.bose.co.jp をご覧ください。

Bose Scene

スタートポイントとして使用する例として、5 つの Bose Scene が用意されています。Bose Scene をロードした後、設定を修正して、その設定を My Scene（User Scene）または Shared Scene として保存できます。

Factory Settings（工場出荷時設定）

このシーンは、T1 の各種設定を、工場出荷時の設定に戻します。このシーンをロードすると、現在ロードしているシーンに加えたすべての変更が消えます。



CH 1-4/5

ToneMatch	**Active** Utility Flat
zEQ	**Bypass** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB
Para EQ	**Bypass**
Comp/Gate	**Bypass** Comp1
Mod	**Bypass** Chorus1
Delay	**Bypass** Digital
Reverb	**Bypass** Medium (Global)
Aux	**Mute** Pre: With EQ & Fx

Global 設定

Preferences

Active screen	Status
USB to PC	Left/Right:Master
USB from PC	Left/Right:Master
Master Out	Post Master Volume

Reverb Type

Type	Medium
Time	1.75ms
Bal	50%

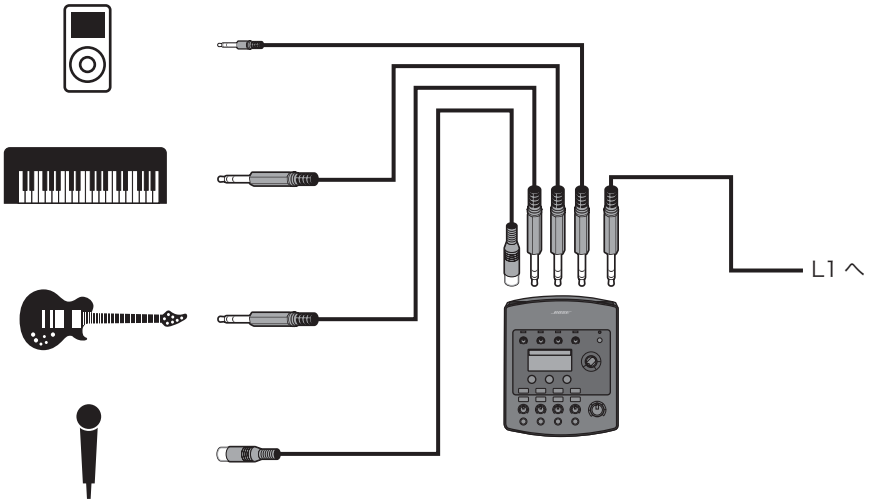
注意：すべてのエフェクターの工場設定リストについては、44 ページの「工場設定」をご覧ください。

Singer/Songwriter（シンガー・ソングライター）

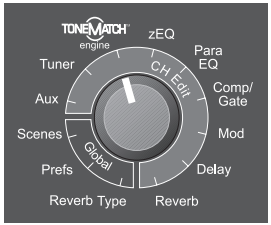
このシーンは、キーボードまたはギターを演奏し、場合によってポータブルオーディオプレーヤーを使用するシンガー・ソングライター用に作られています。

図 14

シンガー・ソングライター用のセットアップの例



シンガー / ソングライターシーンチャンネル設定



	マイクロホン **CH 1**	ギター **CH 2**	キーボード **CH 3**	ポータブルオーディオプレーヤー **CH 4/5**
ToneMatch	**Active** Vocal Mics Handheld Mics	**Active** Acoustic Guitars Steel String w/piezo	**Active** Keyboards General Keys	**Active** DJ/Playback Flat, zEQ Controls
zEQ	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB
Para EQ	**Bypass**	**Bypass**	**Bypass**	**Bypass**
Comp/Gate	**Bypass** Gate	**Bypass** Comp2	**Bypass** Comp2	**Bypass** Limit
Mod	**Bypass** Chorus1	**Active** Chorus1	**Bypass** Chorus3	**Bypass** Chorus1
Delay	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital
Reverb	**Active** Medium (Global)	**Active** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)
Aux	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx

Global 設定

Preferences

Active screen	Status
USB to PC	Left/Right:Master
USB from PC	Left/Right:Master
Master Out	Post Master Volume

Reverb Type

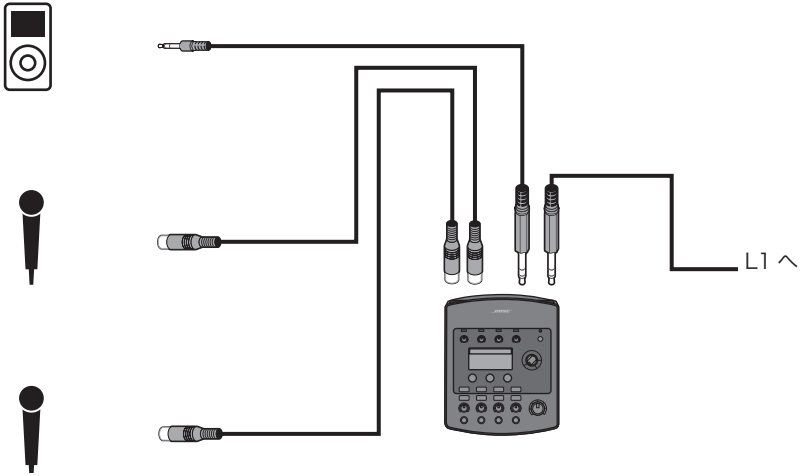
Type	Medium
Time	1.75ms
Bal	50%

DJ/Playback（DJ/ プレイバック）

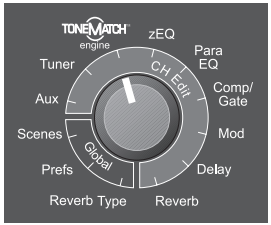
DJ/Playback シーンは、DJ イベントまたはオーディオ再生用に作られています。このセットアップでは、マイクロホン 2 本 と、ポータブルオーディオプレーヤー、ミキサー、ラップトップコンピューターのいずれかを使用します。

図 15

DJ/Playback のセットアップ例



DJ/Playback シーンチャンネル設定



	マイクロホン **CH 1**	マイクロホン **CH 2**	使用せず **CH 3**	ポータブルオーディオプレーヤー **CH 4/5**
ToneMatch	**Active** Vocal Mics Handheld Mics	**Active** Vocal Mics Handheld Mics	**Active** Utility Flat	**Active** DJ/Playback Flat, zEQ Controls
zEQ	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB
Para EQ	**Bypass**	**Bypass**	**Bypass**	**Bypass**
Comp/Gate	**Bypass** Comp1	**Bypass** Comp1	**Bypass** Comp1	**Bypass** Limit
Mod	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1
Delay	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital
Reverb	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)
Aux	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx

Global 設定

Preferences

Active screen Status
USB to PC Left/Right:Master
USB from PC Left/Right:Master
Master Out Post Master Volume

Reverb Type

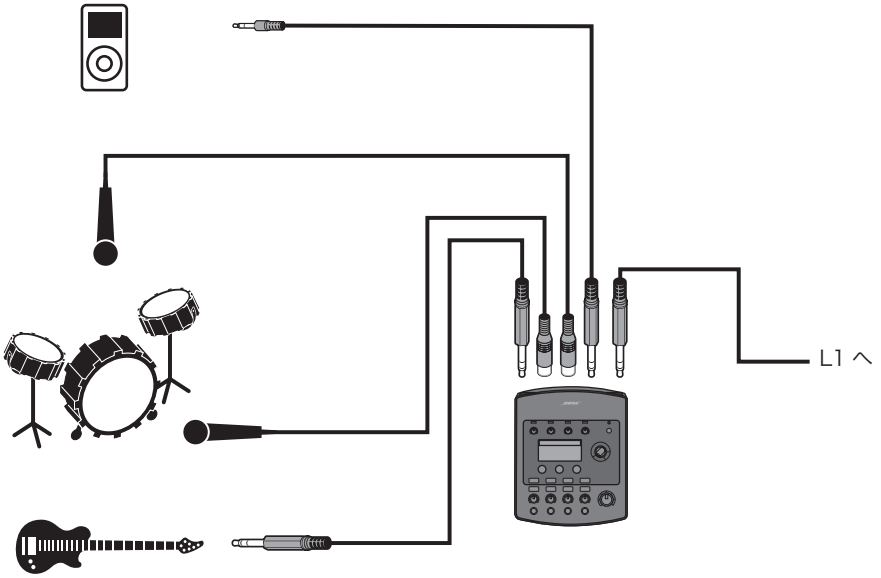
Type Medium
Time 1.75ms
Bal 50%

Drums and Bass（ドラムおよびベース）

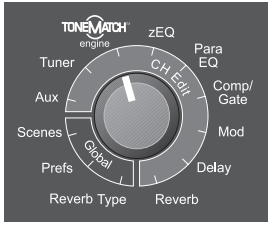
このシーンは、ベースギター、ドラムキット、ポータブルオーディオプレーヤー用にセットアップされています。

図 16

Drums and Bass 用のセットアップ例



Drums and Bass シーンチャンネル設定



	ベースギター **CH 1**	バスドラム用マイクロホン **CH 2**	マイクロホン **CH 3**	ポータブルオーディオプレーヤー **CH 4/5**
ToneMatch	**Active** Basses Active Bass 1	**Active** Percussion Kick, General	**Active** Percussion General Overhead	**Active** DJ/Playback Flat, zEQ Controls
zEQ	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB
Para EQ	Bypass	Bypass	Bypass	Bypass
Comp/Gate	**Bypass** Comp2	**Active** Kick1	**Bypass** Comp1	**Bypass** Limit
Mod	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1	**Bypass** Chorus1
Delay	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital	**Bypass** Digital
Reverb	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)	**Bypass** Medium (Global)
Aux	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx	**Mute** Pre: With EQ & Fx

Global 設定

Preferences

Active screen Status
USB to PC Left/Right:Master
USB from PC Left/Right:Master
Master Out Post Master Volume

Reverb Type

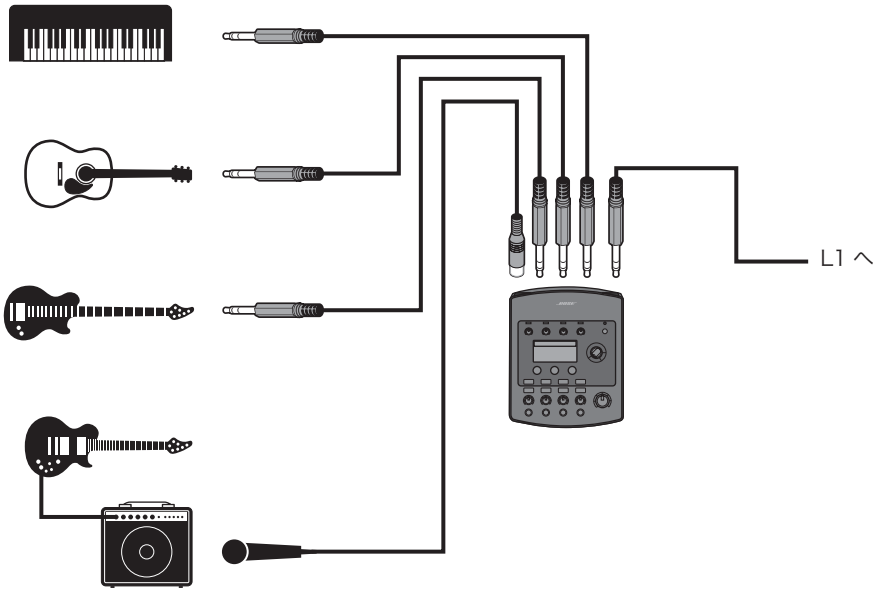
Type Medium
Time 1.75ms
Bal 50%

The Works シーン

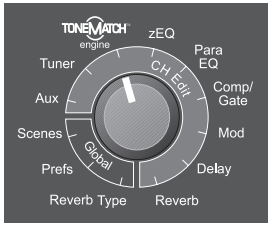
The Works シーンは、エレキおよびアコースティックギター、ベースギター、キーボード用に作られています。

図 17

The Works 用のセットアップ例



The Works シーンチャンネル設定



	エレキギター **CH 1**	ベースギター **CH 2**	アコースティックギター **CH 3**	キーボード **CH 4/5**
ToneMatch	**Active** Electric Guitars Miked Amp w/SM57	**Active** Basses Active Bass 3	**Active** Acoustic Guitars Steel String w/piezo	**Active** Keyboards General Keys
zEQ	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB	**Active** **Low** 0dB **Mid** 0dB **High** 0dB
Para EQ	Bypass	Bypass	Bypass	Bypass
Comp/Gate	**Active** Comp1	**Active** Comp2	Bypass Comp1	Bypass Limit
Mod	**Active** Flange2	**Active** Phaser2	**Active** Chorus1	Bypass Chorus1
Delay	Bypass Digital	Bypass Digital	**Active** Tape	Bypass Tape
Reverb	**Active** Medium (Global)	**Active** Medium (Global)	Bypass Medium (Global)	**Active** Medium (Global)
Aux	Bypass Pre: With EQ & Fx	Bypass Pre: With EQ & Fx	Bypass Pre: With EQ & Fx	Bypass Pre: With EQ & Fx

Global 設定

Preferences

Active screen Status
USB to PC Left/Right:Master
USB from PC Left/Right:Master
Master Out Post Master Volume

Reverb Type

Type Medium
Time 1.75ms
Bal 50%

Factory Settings

このセクションでは、工場出荷時の T1 の設定を説明します。この工場設定に T1 を戻すには、Bose Scene 内の Factory Settings シーンをロードします。

Comp/Gate 工場設定

Type	Thresh	Gain
Compressor 1：Light	-16.0dB	3.0dB
Compressor 2：Medium	-16.0dB	5.0dB
Compressor 3：Heavy	-16.0dB	8.0dB
Limiter	-10.0dB	0dB
De-Esser	-10.0dB	0dB
	Thresh	**Speed**
Noise Gate	-70.0dB	50%
	Thresh	**Tight**
KickGate1:Regular	-20.0dB	100%
KickGate2:Fast	-20.0dB	100%

Modulator 工場設定

Type	Mix	Depth	Speed
Chorus 1:Brite	50%	50%	0.50Hz
Chorus 2:Warm	70%	100%	0.15Hz
Chorus 3:Dark	25%	25%	3.0Hz
Flanger 1:Tape	50%	50%	1.00Hz
Flanger 2:Feedback	50%	100%	2.00Hz
	Speed	**Feedback**	
Phaser 1:Stomp	0.50Hz	0%	
Phaser 2:Rack	0.50Hz	-75%	
Phaser 3:Warm	1.00Hz	-26%	
Phaser 4:Bright	0.50Hz	-76%	
	Speed	**Depth**	
Tremolo	5.00Hz	50%	

Delay 工場設定

Type	Mix	Time	Feedback
Digital	30%	150ms	30%
Analog	30%	275ms	20%
Tape	30%	350ms	30%

Reverb Type 工場設定

Type	Time	Bal.
Plate	1.20s	50%
Small	1.00s	50%
Medium	1.75s	50%
Large	2.20s	50%
Cavern	5.00s	50%

お手入れについて

- 汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。
- 汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。
- どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。
- スピーカーグリル部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

トラブルシューティング

故障かなと思ったら？

修理に出す前に本取扱説明書と次ページの表にしたがってチェックしてみてください。チェックしてもなお症状が改善されない場合は、お買上げになった販売店かボーズ株式会社 サービスセンター（51 ページを参照）までご連絡ください。

問題	解決策
T1 のプラグは差し込み、電源スイッチは入っているが、電源が入らない。	• AC コンセントに電気が来ていることを確かめます。同じ AC コンセントからランプ、その他の機器を作動する。または AC コンセントテスターを使って、コンセントを調べます。 • T1 が、T1 用 AC アダプターに正しく接続されていることを確かめます。 • T1 用 AC アダプターのプラグが、AC コンセントに完全に挿入されていることを確認します。 • 可能であれば、別の T1 用 AC アダプターを使ってみます。
T1 のスイッチは入っているが、音がでない。	• Master ボリュームコントロールが上がっていることを確かめます。 • 聞きたい入力チャンネルがミュートされていないことを確認します。 • 聞きたいチャンネルの Volume コントロールが上がっていることを確認します。 • 該当する入力チャンネルの Trim コントロールが上げられ、緑の LED が点灯していることを確かめます (入力信号があることを示す)。 • Prefs の入力レベル計および Output レベル計で、入出力段に信号があることを確認します。 • 入力ソースのボリュームコントロールが上がっていることを確かめます。 • 別のケーブルを使って、入力ソース (楽器) を T1 に接続します。 • ソースが働いていることを確かめるために PS1 パワースタンドまたは異なるアンプに入力ソース (楽器) を直接差し込みます。 • T1 を切って、30 秒待った後、もう一度 T1 のスイッチを入れます。 **L1 model I システムと T1 を使用する場合 :** • T1 Master 出力が、PS1 パワースタンドのチャンネル 3 または 4 の Line IN に接続されていることを確かめます。PS1 パワースタンドのチャンネル 3/4 のライン入力レベルを上げます。 • システムで R1 リモートコントローラーを使用している場合は、R1 の Master ボリュームが上がっていることを確かめます。 • PS1 パワースタンドの電源 LED が緑であることを確かめます。

問題	解決策
T1 に接続したマイクロホンまたは楽器の音質が悪い。	• 不必要な zEQ、または Para EQ のイコライゼーションが適用されていないことを確かめます。 • マイクロホンまたは楽器に、適切な ToneMatch™ プリセットが選択されていることを確認します。ToneMatch プリセットを使用したくない場合は、ToneMatch が Flat に設定されていることを確かめます。 • 入力チャンネルに不必要なエフェクター (Comp/Gate、Mod、Delay、Reverb) が働いていないことを確かめます。Prefs メニューの Status に、現在有効なエフェクターがないか調べます。 • マイクロホンまたは楽器に対して、T1 入力 Trim が正しく調整されていることを確認します。LED が赤い場合は、緑になるまでトリムレベルを下げます。 • 別のケーブルを使ってみます。 • T1 に接続しているマイクロホンまたは楽器のケーブルを調べます。ケーブルプラグが、マイクロホンまたは楽器の出力コネクターと、T1 入力コネクターに完全に挿入されていることを確かめます。 • マイクロホンまたは楽器の設定を調べます。 • 楽器またはマイクロホンの電池を調べます。
エフェクターが機能しない。	• 正しい CH Edit ボタンを押していることを確認します。 • 問題のチャンネルに、FX Mute ボタンを押していないことを確かめます。
コントロールボタンに T1 が応答しない。	• T1 のスイッチを切ります。30 秒待った後、もう一度 T1 のスイッチを入れます。
Master ボリュームコントロールが機能しない。	• Master 出力が、Prefs メニュー内 Master Out で Post Master Volume に設定されていることを確認します。
T1 入力コネクタに何も接続していない状態で、L1 システムから小さいうなり音が出る。	• T1 と PS1 パワースタンドを、同じ AC(電源) コンセントに差し込みます。 • AC プラグの上下を逆さまにしてみる (極性を変えてみる)。 • 延長コードを使っている場合は、コードも上記と同様に調べます。

問題	解決策
低域、中域、高域が過剰（または不十分）。	• 不要な zEQ または Para EQ のイコライゼーションが適用されていないことを確かめます。 • マイクロホンまたは楽器に、適切な ToneMatch™ プリセットが選択されていることを確認します。ToneMatch™ プリセットを使用したくない場合は、ToneMatch™ が、Ultility カテゴリーで Flat に設定されていることを確かめます。
CD プレーヤー、MP3 プレーヤー、その他の再生機器を使用したステレオ録音の再生音が悪い。	• 機器の左チャンネルを T1 入力チャンネル 4 に、右チャンネルを T1 入力チャンネル 5 に接続します。チャンネル 4/5 は、ラインレベル入力用に作られています。 • CD または MP3 プレーヤーを使用する場合、バスブースト機能または EQ 機能を無効にします。 • コンピューターで録音ソフトウェアを使用している場合は、ソフトウェアの必要条件を調べます。ソフトウェアの設定を、48kHz/24 ビットの動作に設定します。 • PS1 パワースタンドのチャンネルにポータブルデバイスを接続する場合、3.5 φステレオミニプラグから標準フォーン（モノラル）プラグへの変換アダプターを使用して接続してみます。
マイクロホンがハウリングを起こす。	• マイクロホンが、それぞれの L1™ スピーカーに直接向かないようにします。 • 別のマイクロホンを使ってみます。 • L1 システムおよび (または) ステージのボーカリストに対して、マイクロホンの位置を変えてみます。 • L1 システムからマイクロホンまでの距離を離します。 • マイクロホンチャンネルの zEQ を調整することによって、高域を下げます。 • マイクロホンチャンネルの Para EQ を調整することによって、ハウリングが生じてる周波数をカットしてみます。 • 使用しているすべてのオーディオエフェクター (Mod、Delay、Reverb) を一時的にバイパスして、それらがハウリングに関与しているのか確かめます。
Aux 出力から音が出ない。	• 各入力チャンネルの希望のタップポイントに、Aux 出力が設定されているか確かめます。24 ページの「入力信号を Aux 出力に送る」をご覧ください。 **注意：**タップポイントが Pre または Post でも、Aux 出力からリバーブはかかりません。 • 各入力が、Aux 出力にそれぞれ希望の信号レベルを割り当てていることを確認します。

問題	解決策
T1 の USB オーディオ信号を、USB 接続でコンピューターに送れない。	● T1 とコンピューターが、USB ケーブルで正しく接続されていることを確認します。 ● 別の USB ケーブルを使ってみます。 ● T1 に電源が入ることを確かめます。 ● 希望の T1 入力チャンネルが、左右の USB 出力チャンネルに割り当てられていることを確認します。Prefs メニューの「USB to PC」をご覧ください。 ● 各入力チャンネルの Trim レベルが高く、緑の LED が点灯し、入力信号があることを確かめます。 ● Prefs メニューの下にある Input レベル計と Output レベル計を調べて、信号が入出力段にあることを確認します。 ● 別の USB 対応のオーディオデバイスを接続することによって、コンピューター USB 入力が機能していることを確認します。 ● コンピューターで録音ソフトウェアを使用している場合は、ソフトウェアの必要条件を調べます。ソフトウェアの設定を、48kHz/24 ビットの動作に設定する必要があります。
コンピューターから T1 に、音声を USB 接続で送れない。	● T1 とコンピューターが、USB ケーブルで正しく接続されていることを確認します。 ● 別の USB ケーブルを使ってみます。 ● T1 に電源が入ることを確かめます。 ● コンピューターが再生しており、オーディオ設定がコンピューターで無効になっていないことを確認します。 ● USB 信号が希望の T1 入力に割り当てられていることを確認します。Prefs メニューの「PC to USB」をご覧ください。 ● 入ってくる USB 信号に割り当てられた T1 入力チャンネルが、ミュートされておらず、それらのボリュームコントロールが上げられていることを確認します。 ● 該当する入力チャンネルの Trim コントロールが上げられ、緑の LED が点灯していることを確かめます (入力信号があることを示す)。 ● Prefs メニューの下にある Input レベル計と Output レベル計を調べて、信号が入出力段にあることを確認します。 ● 別の USB 対応のオーディオデバイスを接続することによって、コンピューター USB 出力が機能していることを確認します。 ● コンピューターで録音ソフトウェアを使用している場合は、ソフトウェアの必要条件を調べます。ソフトウェアの設定を、48kHz/24 ビットの動作に設定する必要があります。

修理について

もし、修理等が発生した場合は、お買上げになったお店または、ボーズ株式会社 サービスセンターまでご連絡ください。

故障および修理のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　サービスセンター　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。

〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

保証

保証内容および条件は、付属の保証書をご覧ください。

プリセットリスト

Preset Bank Name

Utility

T1 Display	Preset Description
Flat	Flat Pass Through
50Hz Highpass	50Hz Highpass
80Hz Highpass	80Hz Highpass
5kHz Lowpass	5kHz Lowpass
50Hz-5kHz Bandpass	50Hz-5kHz Bandpass
50Hz-5kHz Bandpass	50Hz-5kHz Bandpass

Preset Bank Name

Vocal Mics

T1 Display	Preset Description
Handheld Mics	General Handheld Mic
Headworn Mics	General Headworn Mics
Hi Gain:Bright	General High Gain With Treble Boost
Hi Gain:Normal	General High Gain Normal
Audix OM-2	Audix OM-2
Audix OM-3	Audix OM-3
Audix OM-5	Audix OM-5
Audix OM-6	Audix OM-6
Audix VX-10	Audix VX-10
Beyer M88	Beyer M88
ElectroVoice N/D357	ElectroVoice N/D357
ElectroVoice N/D767	ElectroVoice N/D767
ElectroVoice N/D967	ElectroVoice N/D967
Neumann KMS105	Neumann KMS105
Shure SM57	Shure® SM57
Shure SM58	Shure ®SM58
Shure Beta 57A	Shure® Beta 57A
Shure Beta 58A	Shure® Beta 58A
Shure Beta 87A	Shure® Beta 87A
Sennheiser E855	Sennheiser E855
Sennheiser MD431-II	Sennheiser MD431-II
Flat	Flat Vocal Mic With zEQ

Preset Bank Name

Electric Guitars

T1 Display	Preset Description
Miked Amp w/SM57	Miked Amp Shure® SM57
Line6 Pod	Line6 Pod®
General Processor	General Processor
General Direct	General Direct
Flat Flat Electric	Guitar With zEQ
Miked Amp w/Sennheiser e609	Miked Amp w/Sennheiser e609
Fender Stratocaster	Fender Stratocaster®
Fender Telecaster	Fender Telecaster®
Gibson ES-335/ES-445	Gibson Gibson® ES-335/ES-445
Gibson Les Paul	Gibson Gibson® Les Paul
Gretsch C. Gent	Gretsch Country Gentlemen®
Ibanez Artist	Ibanez Artist®
PRS Custom 22	Paul Reed Smith® Custom 22
Rickenbacker 360/12	Rickenbacker 360/12

Preset Bank Name

Acoustic Guitars

T1 Display	Preset Description
Steel String w/piezo	Steel String w/piezo
Steel String w/dyn	Steel String w/dyn
Steel String w/condensor	Steel String w/condensor
Nylon String w/piezo	Nylon String w/piezo
Nylon String w/condensor	Nylon String w/condensor
Taylor T5	Taylor® T5
Taylor w/Fishman	Taylor® w/Fishman
Guild D25	Guild® D25
Martin Backpack	Martin Backpack
Martin DC16	Martin DC16
Martin D28	Martin D28
Flat Flat	With zEQ

Preset Bank Name

Keyboards

T1 Display	Preset Description
General Keys	General Keys With zEQ
Fender Rhodes 73	Fender® Rhodes 73
Hohner Clavinet D6	Hohner Clavinet D6
Wurlitzer 200	Wurlitzer 200

Preset Bank Name

Basses

T1 Display	Preset Description
Active Bass 1	Active Bass 1
Active Bass 2	Active Bass 2
Active Bass 3	Active Bass 3
Fender Active Jazz	Fender® Active Jazz
Fender 66 P-Bass	Fender® 66 P-Bass
Fender 69 J-Bass	Fender® 69 J-Bass
MusicMan Stingray	MusicMan Stingray®
Lakland 55-01/44-01	Lakland 55-01/44-01
Rickenbacker 4001	Rickenbacker 4001
Rickenbacker 4003	Rickenbacker 4003
Upright w/Fishman	Upright w/Fishman
David Gage Realist	David Gage Realist®
David GageCzechEase	David GageCzechEase®
NS Design Bass	NS Design Bass
Bass zEQ	Bass with zEQ controls

Preset Bank Name

Percussion

T1 Display	Preset Description
Kick, General	Kick, General
Kick, Audix D6	Kick, Audix D6
Kick, AKG D112	Kick, AKG D112
Kick w/Sennheiser 601	Kick w/Sennheiser 601
Kick w/Shure Beta 52a	Kick w/Shure® Beta 52a
General Overhead	General Overhead
Overhead, SM57 Diff	Overhead, Shure® SM57 Differential
Overhead, Cond. Diff	Overhead, Condensor Differential
Hand Percussion, SM57	Hand Percussion Shure® SM57

Preset Bank Name

Winds and Horns

T1 Display	Preset Description
Trumpet w/ SM57	Trumpet with Shure® SM57
Trumpet w/ Pro35ax	Trumpet w/ Pro35ax
Trombone w/ SM57	Trombone with Shure® SM57
Trombone w/ RE20	Trombone w/ RE20
Tenor Sax w/ SM58	Tenor Sax with Shure® SM58
Alto Sax w/ SM58	Alto Sax with Shure® SM58
Soprano Sax w/ SM58	Soprano Sax with Shure® SM58

Preset Bank Name

Special

T1 Display	Preset Description
Accordion w/ Limex MP	Accordion w/ Limex MP
Electric Mandolin	Electric Mandolin
Electric Violin	Electric Violin

Preset Bank Name

DJ/Playback

T1 Display	Preset Description
Flat zEQ Controls	Flat zEQ Controls
Low Volume Music	Low Volume Music
High Volume Music	High Volume Music

仕様

入出力端子

IN（CH1,2,3　XLR/ 標準フォーン コンボ端子）
Preamp OUT（CH1,2,3　標準フォーン）
Line IN　（CH4,5 標準フォーン）
AUX Output（標準フォーン）
Master Output（標準フォーン）
USB 端子（B タイプ）×1
ToneMatch ポート ×1

サンプリングレート

48kHz

AD/DA コンバーター

24bit

外形寸法

166（W）× 213（D）× 68（H）mm

質量

0.97kg

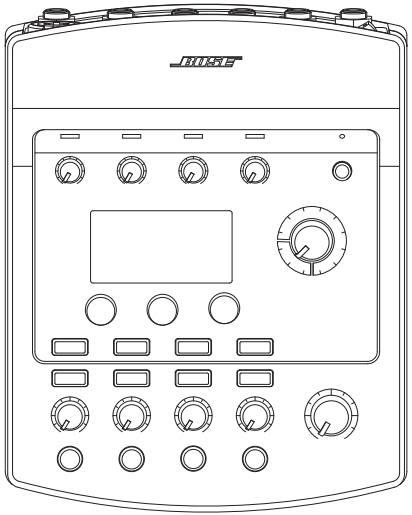
電源電圧

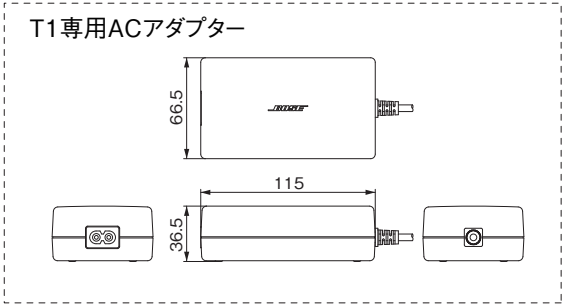
AC100V ～ 240V　50/60Hz　（専用 AC アダプター使用）

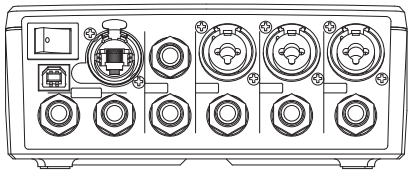
付属品

専用キャリーケース、カバー、L1 取付用ブラケット一式、専用 AC アダプター

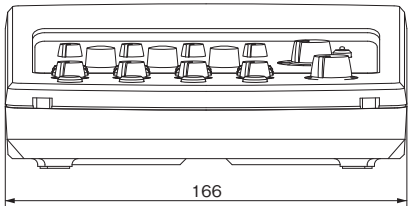
寸法図

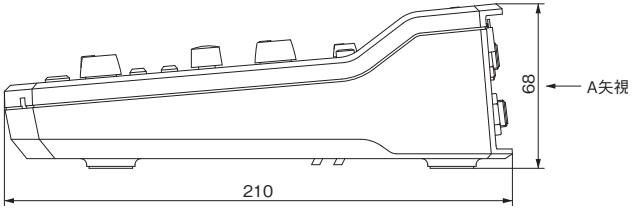






A矢視図





単位：mm

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0036　東京都渋谷区南平台町16 -17 渋谷ガーデンタワー 5階

BOSE
Better sound through research

● 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

● 弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1398-H
13・05 (B)